

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：14301

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B））

研究期間：2018～2023

課題番号：18KK0037

研究課題名（和文）開発金融に関わるグローバル標準の相克と収斂の政治経済分析

研究課題名（英文）The Political Economy of Global Standards on Developmental Finance

研究代表者

鈴木 基史（Suzuki, Motoshi）

京都大学・法学研究科・教授

研究者番号：00278780

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,600,000円

研究成果の概要（和文）：東アジア金融制度のマクロ経済リサーチ事務局が直面する諸問題を分析した報告書「Leading by Design: Asian Lessons for Monitoring Global Financial Stability」を作成に寄与した。その第一章「the Promise and Peril of Multilevel Surveillance in East Asia」は代表者の鈴木が寄稿した。査読付き学術誌International Relations of the Asia-Pacificの特集号として公刊予定である。その他、査読付き国内外の学術誌に13本の論文を掲載した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義として、制度間協調・競争による制度発展の理論化と実証的分析を実施し国際関係学に寄与した。社会的意義として、ボストン大学から公刊された報告書「Leading by Design」を作成して国際政策コミュニティに向けて成果を発信したことに加え、International Relations of the Asia-Pacific誌における特集号の公刊および2024年4月にサンフランシスコ市で開催された米国国際関係学会（ISA）で鈴木、飯田、海外協力者のグライムズ教授がラウンドテーブル討論部会を開催して本研究の成果を発信し、日米学術交流に貢献した点を強調することができる。

研究成果の概要（英文）：(1) Publication of the report "Leading by Design: Asian Lessons for Monitoring Global Financial Stability," which analyzes the various issues faced by the Macroeconomic Research Office (AMRO) of the East Asian financial system. This was edited by our overseas collaborator, Professor William Grimes. The first chapter, "The Promise and Peril of Multilevel Surveillance in East Asia," was contributed by the project leader, Suzuki. (2) Publication of a special issue in the peer-reviewed journal, International Relations of the Asia-Pacific. Suzuki authored the introductory essay "The Rise of Formal Institutions in the Asia-Pacific Region Through Competitive Regime Complexity," and Uji contributed the article "Navigating Environmental Cooperation Amid Political Competition in East Asia." Professor Grimes also co-authored a paper for this issue. The special issue, comprising a total of five papers including two by other authors, is scheduled to appear in the September 2024 issue.

研究分野：国際政治経済学

キーワード：国際政治経済 国際制度 ガバナンス グローバル標準

1. 研究開始当初の背景

本研究の代表者である鈴木基史が実施した科研基盤研究(A)「グローバル・ガバナンスの変容と国家政策の政治経済分析」(平成26~29年度)の一成果となった分担者の飯田敬輔との共著論文“Analyzing Developmental Loan Markets with Rival Lenders,” in Suzuki and Okada, eds. *Games of Conflict and Cooperation in Asia* (Springer, 2017)において、開発金融に関わる複数の融資国と被融資国の行動とその帰結を、冷戦期の米ソ融資に関するデータを用いて分析した。その結果、米ソの融資競争が発生していたことを示し、その背後には非同盟運動を展開した被融資国である途上国が東西両陣営のどちらにも与せず、独自の対外政策を実施しながら米ソの両陣営から融資を得ていた実態を析出した。もし被融資国がどちらか一方の陣営に与してその援助標準に傾斜することになれば、その陣営が推し進める標準がグローバル・スタンダードとして表面化したはずである。しかし、実際には被融資国が等距離外交を実施していたため、複数の競合する標準を併存させたことになった。

冷戦後、1990年代のソ連の解体と東欧共産主義政権の崩壊によって欧米諸国の開発金融原則が世界標準となりつつあるという言説が一時期説得力をもっていたが、米中対立が過熱化し、冷戦期のような融資競争と開発金融標準の相克が再燃しつつある。本研究はこうした現状分析から出発し、複数の標準の相克と収斂を課題として実施された。

2. 研究の目的

そもそもグローバル・スタンダードの形成は、国際関係学の研究課題のひとつである。標準は、非合法的な行動規範と定義され、重要な国際制度のひとつと考えられる。国際標準は、複数のものの中で対立があり、その相克と調整の過程から新たな世界標準が誕生するのかもしれないし、複数の標準が併存し続けることになるのかもしれない。学問的にも、標準という概念は、規範や習慣などという概念とならんで創発性のあるダイナミックなものと捉えられ、政治学・経済学・社会学などで研究対象となっている。とくに、国際協調の可能性と方途を問題とする国際関係学において、標準は他の法的拘束力のある法制度と同様に重要な関心事である。本研究開始時において、国際標準の態様やその形成過程に関して様々な理論が提示され、国際関係学の論争のひとつとなっていた。

3. 研究の方法

効率性の観点からすると、標準はひとつに収斂し、適用範囲がグローバル規模になることが望ましい。ところが、冒頭で述べた冷戦期のように、実際に単一の標準が世界を席捲することはむしろ稀で、複数の標準が併存することが多い。その場合、標準がひとつに収斂するには、複数の標準のいずれかが受容されるという選択問題が発生し、必然的に競争的なプロセスで適用範囲を拡大させるという政治性が発生することになる。こうした国際標準の相克と収斂という課題は、近年の国際関係学研究において、レジーム複合体(regime complex)という概念の下で分析されている。この研究では、貿易、環境、労働、人権、難民などの領域において、各領域に複数の標準が併存していることを前提に、標準間の連携、協調、調整の過程をガバナンスという巨視的な視点から分析するものとなっている。これと対照的に本研究は、標準の制度的態様を国々の利益とパワーという微視的な視点から接近することによって、新たな視座を確立することを目指した。

4. 研究成果

本研究は、開始後2年目でコロナ感染問題に直面することになったが2度の延長を経て、令和5年度で終結した。その結果、競争的な標準構築と柔軟な標準選択の過程を通じて標準の精緻化が発生するという新たな論点を導き出すことに成功した。その過程では、標準の構築と地理的な拡大を狙う主要国が、標準が他の国々の利益に合致することを明示化し、その受容を促すため精緻化を行う。その一方、非主要国は、競合する複数の標準を自国の利益に鑑みて比較し、利益の最大化に適した標準を選択する。したがって、標準の受容と拡大は、国々の利益を架橋する確かな精緻化によって発生する。精緻化という標準の内的な制度変化は、国家間の相互作用の中で発生する戦略的な国家行動の手段であることに加え、競争の結果でもある。このように論じる本研究は、複数の標準が併存する状況を前提に、それらの相克の過程と収斂の可能性を解明しつつ、国際関係学における標準研究の発展に寄与した。

本研究の成果は以下の3点にまとめられる。

海外協力者のWilliam Grimes ボストン大学教授が編者となり、東アジア地域金融制度のマクロ経済リサーチ事務局(AMRO)が直面する諸問題を分析した報告書「*Leading by Design: Asian Lessons for Monitoring Global Financial Stability*」(Boston University, 2024)を作成した。その第一章「the Promise and Peril of Multilevel Surveillance in East Asia」は代表

者の鈴木が寄稿した。

査読付き国際学術誌『International Relations of the Asia-Pacific』(オックスフォード大学出版会)の特集号として発表する予定である。この特集号では、鈴木が序章論文「The rise of formal institutions in the Asia-Pacific region through competitive regime complexity」、分担者の宇治准教授が「Navigating environmental cooperation amid political competition in East Asia」、Grimes教授が共著論文を寄稿した。同特集は他の著者による2論文を合わせ、計5論文編成で同誌の2024年9月号に掲載される予定である。その他、研究成果は国内外の査読付き学術誌に13本の論文として掲載した。

口頭発表としては、令和4年度に仙台で開催された日本国際政治学会研究大会において、鈴木、宇治、Grimes教授がパネリストを務めた英語の部会を開催した。また、本研究終了直後の令和6年4月となったが、鈴木と分担者の飯田、Grimes教授が、米国サンフランシスコ市で開催された米国国際関係学会(ISA)においてラウンドテーブル討論部会を開催し、本研究結果の国際的発信を行った。その他、関連する研究会を計4回開催し、京都大学の教員、大学院生、学部生に研究成果を発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 8件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Matsuo Akitaka, Suzuki Motoshi, Uji Azusa	4. 巻 30
2. 論文標題 Ideas for macroeconomic surveillance: a comparative text analysis of country reports by global and regional financial organizations	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Review of International Political Economy	6. 最初と最後の頁 2357 ~ 2381
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09692290.2023.2166563	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Suzuki Motoshi	4. 巻 15
2. 論文標題 The punitive impact of radical right populism on foreign aid: immigration pressure and mainstream partnership	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 European Political Science Review	6. 最初と最後の頁 542 ~ 561
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/s1755773923000073	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Suzuki Motoshi	4. 巻 22
2. 論文標題 Aiding Higher Education with Export Expansion in the Developing World	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 World Trade Review	6. 最初と最後の頁 608 ~ 628
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/s1474745623000290	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Liam F. Beiser-McGrath, Thomas Bernauer, Jaehyun Song, Azusa Uji	4. 巻 166
2. 論文標題 Understanding Public Support for Domestic Contributions to Global Collective Goods -Results from a survey experiment on carbon taxation in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Climate Change	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Azusa Uji, Aseem Prakash, Jaehyun Song	4. 巻 148
2. 論文標題 Does the "NIMBY syndrome" Undermine Public Support for Nuclear Power in Japan?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Energy Policy	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Azusa Uji, Aseem Prakash, Nives Dolsak, Jaehyun Song	4. 巻 16
2. 論文標題 Public support for climate adaptation aid and migrants: a conjoint experiment in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Environmental Research Letters	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Azusa Uji	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 Mercury Stories: Understanding Sustainability Through a Volatile Element (Book Review)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Global Environmental Politics	6. 最初と最後の頁 183-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 鈴木基史	4. 巻 289
2. 論文標題 政策ネットワークと国際政治	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Iida	4. 巻 21-1
2. 論文標題 Introduction: Competition and Cooperation in the Asia-Pacific Region	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Relations of the Asia-Pacific	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/irap/lcaa021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Keisuke Iida	4. 巻 1
2. 論文標題 Linkages between Security and Economics in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Oxford Handbook of Japanese Politics	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oxfordhb/9780190050993.013.34	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Azusa Uji, Aseem Prakash, and Jaehyun Song	4. 巻 148
2. 論文標題 Does the "NIMBY syndrome" Undermine Public Support for Nuclear Power in Japan?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Energy Policy	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.enpol.2020.111944	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Azusa Uji	4. 巻 1
2. 論文標題 Minamata Convention	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Essential Concepts of Global Environmental Governance	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Azusa Uji	4. 巻 19:2
2. 論文標題 Institutional diffusion for the Minamata Convention on Mercury	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Environmental Agreements: Politics, Law and Economics	6. 最初と最後の頁 169-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10784-019-09432-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Azusa Uji	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 Institutional Diffusion for the Minamata Convention on Mercury	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Environmental Agreements: Politics, Law and Economics	6. 最初と最後の頁 169-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10784-019-09432-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 20件)

1. 発表者名 Motoshi Suzuki
2. 発表標題 International Studies Association
3. 学会等名 Regional Powers and Regional Financial Governance (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Motoshi Suzuki
2. 発表標題 Do Rising Authoritarian Powers Coordinate their Financial Arrangements on the Liberal International Order?
3. 学会等名 International Studies Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Motoshi Suzuki
2. 発表標題 A New Cold War and the Possibility of De-globalization in the Asia-Pacific
3. 学会等名 International Studies Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Keisuke Iida
2. 発表標題 A New Cold War and the Possibility of De-globalization in the Asia-Pacific
3. 学会等名 International Studies Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Azusa Uji
2. 発表標題 Navigating environmental cooperation amid political competition in Asia
3. 学会等名 Japanese Association of International Relations (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 William Grimes
2. 発表標題 Financial Cooperation in the Asia-Pacific as Regime Complex: Explaining Patterns of Coverage, Membership, and Rules
3. 学会等名 Japanese Association of International Relations (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Azusa Uji
2. 発表標題 Supporting Climate Adaptation Overseas by Providing Climate Aid: A Conjoint experiment in Japan
3. 学会等名 Western Political Science Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Azusa Uji
2. 発表標題 Supporting Climate Adaptation Overseas by Providing Climate Aid: A Conjoint experiment in Japan
3. 学会等名 Annual Conference of on Environmental Politics and Governance (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Azusa Uji
2. 発表標題 Cooperation between International Organizations for the Implementation of Multilateral Environmental Agreements: Evidence from the Minamata Convention
3. 学会等名 ISA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇治梓紗
2. 発表標題 From Marine Plastic Cleanup to Security Cooperation? Issue Spillover in Public Attitudes towards Cooperation
3. 学会等名 日本政治学会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Azusa Uji, Liam McGrath, Thomas Bernauer, and Jaehyun Song
2. 発表標題 Understanding Public Support for Domestic Contributions to Global Collective Goods -Results from a survey experiment on carbon taxation in Japan
3. 学会等名 American Political Science Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Azusa Uji, Liam McGrath, Thomas Bernauer, and Jaehyun Song
2. 発表標題 Understanding Public Support for Domestic Contributions to Global Collective Goods -Results from a survey experiment on carbon taxation in Japan
3. 学会等名 Conference of on Environmental Politics and Governance (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Motoshi Suzuki and Azusa Uji
2. 発表標題 Legalization for Coordination: The Case of Bilateral Aid and Preferential Trade Agreements
3. 学会等名 International Studies Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Motoshi Suzuki
2. 発表標題 Immigration, Radical Right Votes, and Foreign Aid: A Strategic Perspective
3. 学会等名 International Studies Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Motoshi Suzuki
2. 発表標題 The Promise and Peril of Multilevel Financial Governance in East Asia
3. 学会等名 Kyoto University-Boston University Joint Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keisuke Iida
2. 発表標題 Trade Governance in the Asia-Pacific
3. 学会等名 International Studies Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯田敬輔
2. 発表標題 グローバル政策ネットワークと国際機関－政治学の視点から
3. 学会等名 日本学術会議学術フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇治梓紗・土井翔平・鈴木基史
2. 発表標題 Detecting the Causal Mechanism of Heterogeneous Climate Policy Diffusion
3. 学会等名 日本統計学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Uji, A. Prakash, A. Song, J.
2. 発表標題 To solve climate problem, will you support a nuclear power plant in your neighborhood? A survey experiment in Japan
3. 学会等名 International Studies Association
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Motoshi Suzuki and Azusa Uji
2. 発表標題 Effective Allocation Strategies and Distributional Conflict in Foreign Aid
3. 学会等名 Political Economy of International Organizations (PEIO) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motoshi Suzuki and Azusa Uji
2. 発表標題 Effective Allocation Strategies and Distributional Conflict in Foreign Aid
3. 学会等名 International Studies Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motoshi Suzuki
2. 発表標題 The Promise and Peril of Multi-level Surveillance in Asia
3. 学会等名 International Workshop at Boston University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motoshi Suzuki
2. 発表標題 The Politics and Institutions of Developmental Finance in East Asia: China-Japan Competition and Collaboration
3. 学会等名 King's College London (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 鈴木 基史、飯田 敬輔	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 国際関係研究の方法	

1. 著者名 宇治 梓紗	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 256
3. 書名 環境条約交渉の政治学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯田 敬輔 (Iida Keisuke) (00316895)	東京大学・大学院公共政策学連携研究部・教育部・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	宇治 梓紗 (Uji Azusa) (00829591)	京都大学・法学研究科・准教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Kyoto Workshop on Regional Financial Governance in East Asia	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 ボストン大学・京都大学・グローバル金融ガバナンス研究会	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Regional Financial Governance in East Asia	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Leading by Design	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関